

研究課題名	閉塞性大腸癌に対するBridge to surgery (BTS) としての 大腸ステント治療の後ろ向き研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 外科 氏名 井垣 尊弘
研究期間	2021 年 10 月 ~ 2023 年 3 月
研究の意義・目的	閉塞性大腸癌に対して根治切除を前提とした術前の閉塞解除 (Bridge to surgery: BTS) としてのステント治療は、緊急手術を回避し術後合併症のリスクを軽減するが、穿孔等が長期予後を悪化させる可能性も示唆されており、その有用性についてはいまだはっきりしていないのが現状である。当院では2012年の大腸ステント保険適応以降、2014年3月からステント治療を施行しており、その治療の短期及び長期成績に関しての有用性を検討すべく、本研究を立案した。 本研究は、当院における閉塞性大腸癌に対するBridge to surgery (BTS) としての大腸ステント治療成績に関して後ろ向きに解析し有用性を検討することを目的とする。
研究の方法 (対象期間含む)	2014年3月~2021年9月までに閉塞性大腸癌に対してステント留置術を施行した125例のうち、BTS目的の72例を対象とした。それらのステント留置 (手技的成功率、臨床的成功率) 及び、根治手術の短期成績 (出血量、手術時間、術後在院日数、術後合併症)、StageⅢ以下で根治切除可能であった60例の長期成績 (無再発生存率、5年生存率) を検討した。
① 試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)	① カルテから転記したデータは、研究IDを用いて連結可能匿名化をした上で、別々に管理する。研究成果は統計解析などの処理を施し、個人を特定できない状態で公表する。個人を特定しえるすべてのデータは、研究責任者(武蔵野赤十字病院 外科 井垣尊弘)が個人情報管理者となり、厳重に管理する。
② 利用し、又は提供す る試料・情報の項目	② 電子カルテの診療録から得られる患者情報のみ
③ 利用する者の範囲	③ 研究責任者 (武蔵野赤十字病院外科 井垣尊弘) のみに限る
④ 試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	④ 武蔵野赤十字病院 外科 井垣尊弘
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 外科 氏名 井垣尊弘  TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525